

# 朝鮮人慰安婦の足跡たどる

「アリランのうた—沖繩からの証言」朴監督

「アリランのうた—沖繩からの証言」と題した記録映画の取材活動を続ける製作・監督の朴壽南(パク・スナム)さん。日本の戦史から葬り去られるように、存在を否定され続けていた「朝鮮人従軍慰安婦」、さらには同じく韓国から強制連行された朝鮮人軍夫の足跡をたどり、全ぼうを解明しようとしている。しかし、四十数年の歳月の流れによる問題の風化と、閉ざされた関係者の心を開かせるために時間がかかるなど、当初の製作費が底をつくといった大きな壁にぶつかっている。朴さんに記録映画作りの動機や製作内容、現状などを聞いた。

以前から韓国人の従軍慰安婦の存在を知っていたという朴さんは「同胞の女性

の手で、死んでいった彼女たちの無念をほらそう」とトをかけたようにしていた矢先、資金難で製作が一時中断するといった事態が発生。そこで、「アリランのうた」沖繩からの証言」を創るん、韓国でも取材活動をする会の沖繩のメンバーが力行してきた。映画の年内完成を目指し、製作も追い込みに入り、朴さんはかけがえのない歴史だからと、きちんと記録し、子どもたちにとどんで伝えたい」と創作意欲は増すばかり。ところが、映画の年内完



成を目指してラストスパークをかけたようにしていた矢先、資金難で製作が一時中断するといった事態が発生。そこで、「アリランのうた」沖繩からの証言」を創るん、韓国でも取材活動をする会の沖繩のメンバーが力行してきた。映画の年内完成を目指し、製作も追い込みに入り、朴さんはかけがえのない歴史だからと、きちんと記録し、子どもたちにとどんで伝えたい」と創作意欲は増すばかり。ところが、映画の年内完

成を目指してラストスパークをかけたようにしていた矢先、資金難で製作が一時中断するといった事態が発生。そこで、「アリランのうた」沖繩からの証言」を創るん、韓国でも取材活動をする会の沖繩のメンバーが力行してきた。映画の年内完成を目指し、製作も追い込みに入り、朴さんはかけがえのない歴史だからと、きちんと記録し、子どもたちにとどんで伝えたい」と創作意欲は増すばかり。ところが、映画の年内完

成を目指してラストスパークをかけたようにしていた矢先、資金難で製作が一時中断するといった事態が発生。そこで、「アリランのうた」沖繩からの証言」を創るん、韓国でも取材活動をする会の沖繩のメンバーが力行してきた。映画の年内完成を目指し、製作も追い込みに入り、朴さんはかけがえのない歴史だからと、きちんと記録し、子どもたちにとどんで伝えたい」と創作意欲は増すばかり。ところが、映画の年内完

戦争がそして戦場が男の人間性を奪い女を性的植民地に

慰安所として性的植民地とされた女性を残そうと映画に掘り続ける朴さん



制連行。「慰安婦は売春とは違い、意思を持たない。日本は初めから見殺しにするつもりだったとしか思えない。日本人にとって朝鮮人は人間以下のものであった」と語る。

制連行。「慰安婦は売春とは違い、意思を持たない。日本は初めから見殺しにするつもりだったとしか思えない。日本人にとって朝鮮人は人間以下のものであった」と語る。

制連行を執行した日本人男が、日本人男性の東南アジアへの売買春ツアーを「現在の性の植民地を求める姿」にたとえたという。朴さんは過去の朝鮮人の姿に現代の女性問題をかいま見ている。「かつての慰安所は今でも戦場や基地の周辺には形を覚えて存在する」。そんな現実を踏まえて「女が本当に男から解放されるのは性の自立がなされたとき。つまり、戦争がなくなる限り男の解放はないし、ひいては女の解放もない」。

かけがえのない歴史だからきちんと記録子供たちに伝えたい

当時の、沖繩に連行された朝鮮人と沖繩住民のかかわりについて、「朝鮮人は沖繩の人を抑圧された同じ仲間だと感じていた。しかし、沖繩の人のなかには朝鮮人を差別し、けがれたものと

して見る人もいた。しかし日本人にとっては沖繩人も虫けらで、沖繩は日本の植民地にしかすぎなかった」と、戦時下の差別的構造を明らかにした。強制的に慰安婦にされた女性たちは日本軍の行く先々に連れていかれながらも、敗走するときは「連合軍に知られると困る」との意向で「処置」。「(日本が)国家的な恥として慰安婦の存在をひたすら抹殺し、闇(やみ)に葬ってき」と朴さん。さらに、性に

制連行を執行した日本人男が、日本人男性の東南アジアへの売買春ツアーを「現在の性の植民地を求める姿」にたとえたという。朴さんは過去の朝鮮人の姿に現代の女性問題をかいま見ている。「かつての慰安所は今でも戦場や基地の周辺には形を覚えて存在する」。そんな現実を踏まえて「女が本当に男から解放されるのは性の自立がなされたとき。つまり、戦争がなくなる限り男の解放はないし、ひいては女の解放もない」。

支援金の口座番号は沖銀豊見城支店(普) 一一六七八一